

CASBEE_Sapporo2014v1.0
札幌医科大学教育研究施設I

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0
■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.1)

スコアシート		実施設計段階			重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雪処理				
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	W	G	S		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 騒音					3.1	0.15	-	-	3.1
1.2 遮音					3.0	0.40	-	-	3.4
1 開口部遮音性能					3.3	0.40	-	-	
2 界壁遮音性能				予測値Dr40程度	3.0	0.30	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					4.0	0.30	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	0.20	3.0	-	
1.3 吸音					3.0	0.20	3.0	-	
					3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境									
2.1 室温制御					3.4	0.35	-	-	3.4
1 室温					3.8	0.50	-	-	
2 外皮性能	W			窓U=3程度、外壁その他U=0.35-0.5程度。	3.0	0.60	3.0	-	
3 ソーン別制御性					5.0	0.40	3.0	-	
2.2 湿度制御					3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境									
3.1 昼光利用					2.9	0.25	-	-	2.9
1 昼光率					2.8	0.30	-	-	
2 方位別開口					2.0	0.60	3.0	-	
3 昼光利用設備	W			トップライトによる採光を利用し、共用部の照度を確保している。	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策					3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御	W				3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度					3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境									
4.1 発生源対策					4.2	0.25	-	-	4.2
1 化学汚染物質				内装材はF☆☆☆☆を使用	5.0	0.50	3.0	-	
2 発塵対策					3.0	0.30	-	-	
4.2 換気					3.0	0.33	3.0	-	
1 換気量					3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能					3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮					4.0	0.20	-	-	
4.3 運用管理					3.0	0.50	-	-	
1 CO ₂ の監視				建物内は運用上禁煙となります。	5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能									
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ					3.1	0.40	-	-	3.1
1 広さ・収納性					3.0	0.40	-	-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画					3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観					2.0	0.50	3.0	-	
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-	-	
3 内装計画				内装木質化をベースにより検討	4.0	0.50	-	-	
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				点検口サイズ600角、トイレにはSK設置	4.0	0.50	-	-	
3 維持管理業務					-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震					3.7	0.30	-	-	3.7
1 耐震性				耐震性能25%増	3.8	0.50	-	-	
2 免震・制振性能					4.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.20	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					3.3	0.30	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	W				3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	W				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	W			耐用年数が短くと思われる部分はステン等を使用している	4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	W			2種類以上にCを採用	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	W				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					4.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				系統分岐をしている。地震対策をおこなっている	4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				節水型器具を採用。水槽は2槽式。井水使用。受水槽に蛇口取付	5.0	0.20	-	-	
3 電気設備				非常・無停電電源を有し、電源二重化、電気室は高層階に配置	5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				構内交換・情報ともに無停電・非常電源を有し、機器は中層階に配置	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性									
3.1 空間のゆとり					3.6	0.30	-	-	3.6
1 階高のゆとり				階高は基準階4.1m。	4.6	0.30	-	-	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率=0.26(7階)	5.0	0.60	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					4.0	0.40	3.0	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.30	3.0	-	
1 空調配管の更新性					3.4	0.40	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性				撤入スペース、通路、及び更新機器スペース確保し、切替盤による無停電	4.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保				バックアップスペースを考慮した、余裕のある設備諸室配置	4.0	0.20	-	-	

CASBEE_Sapporo2014v1.0
札幌医科大学教育研究施設I

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0
■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.1)

スコアシート		実施設計段階		重点評価項目: W 省エネルギー・省資源、G 緑化、S 雷処理		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
	W	G	S							
Q3 室外環境(敷地内)										
1 生物環境の保全と創出										
2 まちなみ・景観への配慮										
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
3.2 敷地内温熱環境の向上										
LR 建築物の環境負荷低減性										
LR1 エネルギー										
1 建物外皮の熱負荷抑制										
2 自然エネルギー利用										
3 設備システムの高効率化										
3.1 集合住宅以外の評価(3a,3b)										
3.2 集合住宅の評価(3c)										
4 効率的運用										
4.1 集合住宅以外の評価										
4.1.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
4.1 集合住宅の評価										
4.1.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
LR2 資源・マテリアル										
1 水資源保護										
1.1 節水										
1.2 雨水利用・雑排水等の利用										
1.2.1 雨水利用システム導入の有無										
1.2.2 雑排水等利用システム導入の有無										
2 非再生性資源の使用量削減										
2.1 材料使用量の削減										
2.2 既存建築躯体等の継続使用										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用										
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用										
2.5 持続可能な森林から産出された木材										
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み										
3 汚染物質含有材料の使用回避										
3.1 有害物質を含まない材料の使用										
3.2 フロン・ハロンの回避										
3.2.1 消火剤										
3.2.2 発泡剤(断熱材等)										
3.2.3 冷媒										
LR3 敷地外環境										
1 地球温暖化への配慮										
2 地域環境への配慮										
2.1 大気汚染防止										
2.2 温熱環境悪化の改善										
2.3 地域インフラへの負荷抑制										
2.3.1 雨水排水負荷低減										
2.3.2 汚水処理負荷抑制										
2.3.3 交通負荷抑制										
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制										
3 周辺環境への配慮										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止										
3.1.1 騒音										
3.1.2 振動										
3.1.3 悪臭										
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制										
3.2.1 風害の抑制										
3.2.2 砂塵の抑制										
3.2.3 日照障害の抑制										
3.3 光害の抑制										
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策										
3.3.2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策										